

ショートコメント vol.171 (2020年6月5日)

テーマ：輸出・生産は今後回復に向かう可能性も
～リーマンショック後との大きな違い。5月の推移がカギ～

●減少が続く輸出

新型コロナウイルスの影響で、全国、関西ともに輸出の減少が続いている。直近の20年4月は、全国が21.9%減、関西は5.5%減となった(図表1)。米中貿易摩擦の影響もあり、輸出はかねてから減少傾向が続いていたが、全国的には新型コロナの影響でそれがエスカレートしている。

一方、4月の動きについては、関西は全国に比べて減少幅が小さいが、それは輸出に占める自動車の比率の違いが大きいため。全国の4月の減少は自動車による部分が大きく、それを除けば減少率は大きく低下する(図表2)。

自動車を含む輸送用機器が輸出に占める割合については、全国で24%に上る一方、関西では4%にとどまる(19年実績)。結果として足元の自動車の不調が全体に及ぼす影響は、全国と関西では大きく異なる。

加えて、4月の関西からの輸出については、中国向けを中心とした5Gやスマートフォン、PC向けの電子部品が好調に推移したほか、ゲーム機や医薬品といったコロナ関連の動きの増加もあり、減少幅は全国を下回る結果となった。

●海外の生産は3~4月が底か

一方、輸出を取り巻く環境に目を向けると、海外の製造業PMIは4月を底に上向きつつある(図表3)。特に中国は一定の回復をみせ、すでに50の水準にまで戻っている。実際、関西の輸出をみると、中国を中心としたアジア向けは決して悪くない。

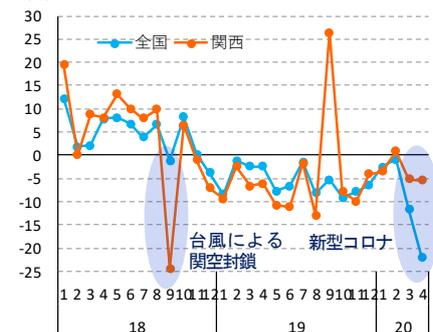
加えて、欧米でも都市の封鎖(ロックダウン)が順次解除となり、生産活動も徐々に戻りつつある。それぞれのPMIの推移にも表れているように、回復ペースは緩慢であるものの、今後は徐々に上向くことが予想される。それには各国政府による積極的な経済対策も追い風となる。

これらを素直に受け取れば、輸出環境としては3~4月が最悪であったとの見方も成り立つ。5月以降は輸出が上向き可能性もあるだけに、その推移が注目される。

●輸出と生産の反転への期待

そういった中で、今回のコロナショックによる経済的な影響については、リーマンショックを上回るとの見方が一般的となっている。

【図表1】 全国と関西の輸出額の推移(前年比)



(出所) 財務省「貿易統計」

【図表2】 全国の輸出額の推移(前年比)



(出所) 財務省「貿易統計」

【図表3】 主な国・地域の製造業PMIの推移



※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

まだ感染の第2波の有無も不透明であり、最終的な収束時期も読めないものの、消費などへの影響をふまれば、その可能性は否定できない。

ただし、コロナショックによる影響にはばらつきが大きいことも事実であろう。特に、輸出は4月が底であるとすれば、リーマンショックとはかなり状況が異なってくる。

特に関西の推移をみれば、その印象が非常に強い。リーマンショックの際は、30～40%前後の減少が10か月続いた(図表4)。今回は直近の4月の減少率が5%台にとどまっている。さらに、5月の動きが4月よりも上向きようであれば、輸出への影響はリーマンショックを大きく下回る可能性が出てくる。

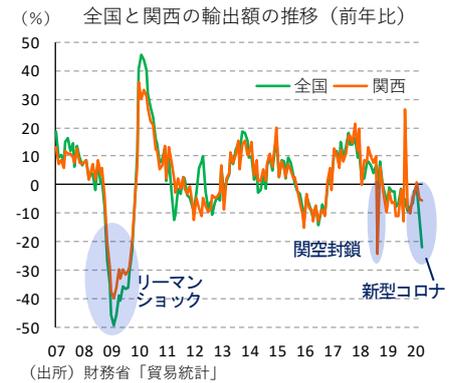
輸出と生産の連動性が高い点を考えると、これは生産の回復も意味することから、5月の輸出動向は今後を占う大きなポイントといえよう。

●リーマンショックと今回の違い

ここで改めてリーマンショック後との違いを考えてみると、まずは金融不安が発生しておらず、逆に企業へは十分な資金供給が行われている点大きい。さらに、全分野にまたがる減少は起きておらず、5Gをはじめとする好調な分野があることも大きな違いであろう。加えて、政府による需要喚起策の規模も、今回は過去に例をみないものとなっている。つまり、反転のスピード感も当時とは異なる可能性が高い。

「今回のコロナショックはリーマンショック以上の落ち込み」という評価は、個人消費に対しては当てはまるものの、今のところ、輸出や生産についてはもう少し経過をみる必要があるということになる。

【図表4】



本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL：06-6258-8805 mail：hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。